

会 議 結 果 報 告 書

令和 7 年 7 月 3 1 日

会議の名称	令和 7 年度 第 1 回志木市地域医療連絡協議会
開催日時	令和 7 年 7 月 3 0 日（水）午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 4 5 分
開催場所	市役所大会議室 3－3
出席委員	鎌田昌和委員、岩崎智彦委員、宮本日出委員、西野博喜委員、 椎木雅和委員、鳥飼香津子委員、高澤淳仁委員、根岸麻紀委員、 瀧仁孝委員、河村龍二委員、小野寺敬二委員、 清水裕子委員、中村修委員、佐野隆之委員、高山佳明委員、 古田真由美委員、仲野昭子委員、清水陽子委員、的場裕行委員、 渋谷幹彦委員、金澤嘉子委員、神崎喜代乃委員、杉田明子委員 (計 2 3 人)
欠席委員	蓼沼寛委員、加藤広久委員、相原大和委員、外村光康委員 (計 4 人)
説明員氏名	的場裕行委員、高山佳明委員、仲野昭子委員、清水陽子委員 佐野隆之委員、渋谷幹彦委員、金澤嘉子委員、神崎喜代乃委員、 杉田明子委員、小野寺敬二委員、志田真由美(健康増進センター副所長) (計 1 1 人)
議 題	(1) 令和 6 年度事業報告及び令和 7 年度取組事業について (2) 新型インフルエンザ等対策行動計画策定について (3) その他
結 果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0 人)
事務局職員	山田美穂、高橋薫、本間晴香、菅谷豊、小林麻有（健康政策課）

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

（１）令和６年度事業報告及び令和７年度取組事業について

各所属の事業内容等について各担当委員より報告した。

〔共生社会推進課〕

基幹福祉相談センター事業

〔長寿応援課〕

高齢者関連統計、在宅医療介護連携推進事業、認知症初期集中支援チーム事業、フレイル予防プロジェクト

〔子ども支援課〕

子ども家庭総合支援室に関する事業、子ども医療費助成事業、ひとり親家庭等医療費支給事業

〔保育課〕

保育園児健康診断事業、医療的ケア児支援事業、居宅訪問型保育事業

〔健康政策課〕

いろは健康ポイント事業、おいしく減塩！「減らソルト」プロジェクト事業、地域の「しょく（食・職）場づくり」担い手育成による食育の推進、志木っ子元気！子どもの健康づくりプロジェクト、被保護者健康管理支援事業、健（検）診事業、舌圧測定・オーラルフレイル事業、アピアランスケア用品購入補助金交付事業、食と健康のスマートマスター育成講座、AYA 世代がん患者在宅療養支援事業、国保保健事業

〔健康増進センター〕

定期予防接種事業、出産・子育て応援金、母子保健事業、健康増進事業、歯科保健事業、こころの健康づくり事業、ママサポあんしんタクシー事業、帯状疱疹ワクチン接種事業、新型インフルエンザ等対策行動計画、母子保健事業（拡充・新規）

〔児童発達相談センター〕

相談事業、小児科医師相談事業

〔保険年金課〕

志木市国保における医療費の推移、後発医薬品の使用促進対策、後発医薬品数量シェア

〔学校教育課〕

令和6年度志木市立小中学校健康診断実施結果

〔志木消防署〕

事故種別年令区別傷病程度別搬送人員調

(2) 新型インフルエンザ等対策行動計画策定について

(3) その他

●質疑応答及び意見

委 員) 帯状疱疹ワクチンの入手方法について、国から支給されているのか市が国から購入しているのか。

委 員) 定期接種のワクチンは市としては購入していない。指定医療機関で用意してもらっている。

委 員) 医療機関に報酬がいくのか。

委 員) そのとおり。医療機関からの請求により支払いしている。

委 員) 子宮頸がんワクチンも一緒か。

委 員) そのとおり。

委 員) 新規事業、オーラルフレイル事業の舌圧測定について、75歳以上の高齢者で測定者260人の内、標準値未満が142人と半分以上になっている。この事業は新規事業のため、どのあたりを対象にしているかはこれから検討が必要であると思うが、これだけ多いと、年齢を下げた方がいいのか、年齢とは別に対象者がいるのかなど、教えていただきたい。

委 員) 支部長として昨年から関わっているのでお答えする。

全身の衰えが口から始まる、ということでオーラルフレイルという単語を使っている。2018年から口腔機能低下症という病気であると定められ、治療が必要となっている。治療しないと2年後の介護リスクが2.4倍、4年後の死亡リスクが2.1倍となる非常に深刻な状態である。このため、埼玉県に先駆けて取組を始めた。

昨年度開始したが、計測には機器が必要。また、歯科医師、歯科衛生士が必要。マニュアルもないため今回は75歳以上を対象とし、舌圧だけを検査した。今年度も75歳以上対象だが、口腔機能低下症は7項目の内3項目以上該当することにより診断するため、2項目増やし3項目とした。これにより判断できる。今年度は3項目に該当し、

口腔機能低下症と考えられるのは10%、17名であった。

昨年度は260人のうち55%が基準値以下だったのに対し今年度は60%と該当者は増えている。日本老齢歯科学会では40歳のうち3人に1人、50歳で2人に1人が口腔機能低下症になっているというデータがある。70歳以上では83%となっているため、これを考えるともっと早くから介入した方がいいと思われる。

他の事業も大事だと思うが、今後はオーラルフレイル、非オーラルフレイル群で医療費や通院日数のエビデンスをとりたいと考えている。令和2年神奈川県歯科医師会の調査によると、歯科を除く通院についてオーラルフレイル群は非オーラルフレイル群に比べ9.1日、医療費20万円、調剤費30万円多かった。

具体的なことはまだ決まっていないが令和8年度からは60歳以上に対象年齢を引き下げて取り組んでいきたいと考えている。

委員長) 新型インフルエンザ等対策行動計画についてはまだ始まったばかり。

今後1年かけて作っていくということでよいか。

委員) そのとおり。

委員) 消防の出動件数について。年間4,166件、2台の救急車でまかなうと1台当たり相当な件数だと思うが、複数同時に要請が来た場合はどのように対応するのか。

委員) 朝霞市の埼玉県西南地区消防局の指令センターで6～7名がコールを受けている。同時入電してもそれぞれが救急指令を流している。志木消防では2台の救急車が稼働しているが、救急車が不足した場合は直近の消防に司令が行き、出動できるようになっている。

4 閉 会